

児 童 期

(6・7歳～11・12歳)

教育目標番号 1

内容の柱 第1 郷土の自然や文化の愛護と振興

郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努める。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
D	1 努めて自然に接し、それを大切にすることができる。
B	2 郷土の歴史について、関心をもつことができる。
B	3 郷土の伝統的行事に関心をもち、参加することができる。
B	4 郷土の文化財を大切にすることができる。
D	5 高齢者とのふれあいを通して、豊かな体験に学び、これを生かすことができる。

(2) 具体策

- 郷土足利の自然や文化についてポスター、作文などで啓発
- 地域の社会的行事の開催と家族ぐるみでの参加
- 文化財めぐりの実施と参加（足利学校の見学など）
- 自然公園や文化財周辺などの美化活動への参加
- 夏期キャンプにおける教育キャンプ場の開設と活用
- 野外活動施設の整備と活用
- 郷土の自然や歴史、文化についての学習の充実
- ふる里いろはかるたなどの活用
- 環境の美化、保護についての学習の充実

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 地域では、郷土の自然や文化にふれる機会を多くし、理解を深める。
- 家庭では、郷土の自然や文化に家族ぐるみで親しむ機会をもつとともに、地域社会の諸行事に興味・関心をもち、進んで参加する。
- 学校では、体験的な活動を含めた学習を取り入れて、地域の自然や文化の理解に努める。
- ◎ 地域を中核として、家庭、学校との連携を図りながら、自然や文化の保護と振興発展に努める。

教育目標番号 2

内容の柱 第1 郷土の自然や文化の愛護と振興

動植物を愛し、自然に親しむ豊かな心を養う。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 生きものを大事にし、生命を尊ぶことができる。
B	2 進んで自然に接し、自然の事物を利用して遊ぶことができる。
D	3 自然に対して、驚きや親しみを感じるとともに、感謝の気持ちをもつことができる。

(2) 具体策

- 動植物の飼育栽培の指導と実践
- 自然を利用した野外活動施設の整備と利用
- 家族ハイキングなどの実施と参加
- 生命尊重に関する指導

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、動植物の飼育栽培やハイキング・キャンプなどを通して、動植物愛護や自然に親しむ心を育てる。
- 学校では、生活科、理科や特別活動を中心として、生命を尊重することや、自然に親しむ教育を意図的、計画的に行う。

- 地域では、自然に親しみ、自然に接する場と機会を提供する。
- ◎ 家庭を中核として、学校、地域との連携を図りながら、生命の尊重と自然に対する親しみや感謝の心を育てる。

教育目標番号 4

内容の柱 第2 健康・安全の保持増進

いろいろな運動を楽しみ、体力を身につける。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 歩いたり、走ったり、跳んだりして身体を動かして体力をつけることができる。
B	2 体操などの運動によって、身体を柔らかくすることができる。
C	3 ボール運動などによって、素早く身体を動かすことができる。
D	4 水に親しんで浮いたり、泳いだりすることができる。
B	5 自転車を上手に乗ることができる。
D	6 ゲームなどの遊びによって体力をつけることができる。
C	7 簡単なスポーツに親しむことができる。
B	8 スポーツを通して精神力を養うことができる。

(2) 具体策

- 学校体育の充実と生活化の推進
- 運動施設、設備の充実と活用
- 生涯スポーツの推進と参加
- 運動公園などの利用
- 各種スポーツの指導者の養成とその人材の活用
- 家庭で楽しむ体力づくりの実践
- 健康診断やスポーツテストなどの計画的な実施と活用

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 学校では、めあてをもって運動に親しむことを意図的、計画的に指導する。
- 家庭では、家族ぐるみで運動をし、運動の楽しさを知る。
- 地域では、運動できる環境を整え、生涯スポーツの推進を図る。
- ◎ 学校を中核として、家庭、地域との連携を図りながら、体力向上に努める。

教育目標番号 7

内容の柱 第2 健康・安全の保持増進

健康・安全に必要な基本的な生活習慣や態度を身につける。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 早寝、早起きなど基本的な生活習慣を身につけることができる。
A	2 生活の中で危険な物や場所について正しい判断をすることができる。
A	3 交通安全の習慣を身につけることができる。
D	4 歩くとき、腰かけるとき、本を見るときなど、それぞれに合った正しい姿勢をとることができる。
B	5 食事の仕方を身につけ、好ききらいしないで食事をするすることができる。
B	6 病気に関心を持ち、予防のための実践をすることができる。

(2) 具体策

- 健康診断の定期的実施と事後指導

足利市の教育目標

- 健康・安全な生活態度の習慣化の推進
- 交通安全の指導
- 遊具や危険な場所の安全点検と管理
- 食事に関する指導
- 避難訓練の定期的実施
- 生活の中で危険から身を守るための指導

(3) 目標達成の場とそこのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、健康・安全についての意識を高め、必要に応じて具体的にその場で指導する。
 - 学校では、健康・安全について意図的、計画的に指導するとともに、校内の安全点検に努める。
 - 地域では、健康・安全についての意識を高め、環境を整える。
 - 警察官、交通指導員による街頭での交通安全指導を行う。
 - 地域では身近な場所の安全点検と事故防止に努める。
- ◎ 家庭、学校を中核として、地域との連携を図りながら、健康・安全についての習慣や態度を育てる。

教育目標番号 13

内容の柱 第3 社会連帯感の育成

社会の一員としての自覚をもち、社会的態度を身につける。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
D	1 公の機関、特に、市役所、消防署、警察署などの働きが、私たちの生活にどのように関係しているかを理解することができる。
D	2 自分は、社会の一員であることを、言葉や行いで示すことができる。
D	3 地域の行事に参加し、地域社会への理解を深めることができる。
A	4 学校やグループの生活の中で、自分が受け持つ仕事の責任を果たすことができる。
A	5 集団の中でみんなの意見と、一人ひとりの意見を尊重し、だれとでも仲良く生活していこうとする態度をとることができる。
B	6 学級やグループの中でいくつかの役割を受け持ったり、みんなのために働いたりすることができる。
B	7 公の場所をきれいにすることができる。

(2) 具体策

- 広報紙や、社会科副読本などの活用
- 集団の一員としての自覚を育てる教育活動の充実
- 特別活動を通しての奉仕活動の実践
- 足利市における特色ある行事の紹介
- 明るいあいさつ運動の推進
- 社会教育推進のための指導者の養成
- 町内子供会などの育成と指導

(3) 目標達成の場とそこのかかわり（教育機能連関）

- 学校では、社会の一員としての資質の育成に努力するとともに、家庭や地域に働きかける。
 - 家庭では、地域社会との連携を図り、子供会などに参加できるよう援助する。
 - 地域では、いろいろな行事に参加できるよう援助する。
- ◎ 学校、家庭、地域が一体となって社会的態度の育成に努める。

教育目標番号 18

内容の柱 第3 社会連帯感の育成

友達と互いに協力し合うことができる。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 相手の心を思いやって協力することができる。
D	2 男女が互いに仕事を分担しあい協力できる。
B	3 集団の中で、規律を守って行動することができる。
B	4 集団の中で決めたことに協力することができる。
A	5 グループの中で自分の役割を果たすことができる。

(2) 具体策

- 交友関係調査の実施と事後指導
- 友達を思いやる教育活動
- 望ましい人間関係を育成する特別活動
- 児童館の利用促進
- 地域ぐるみの明るいあいさつ運動の推進

(3) 目標達成の場とそのかわり（教育機能連関）

- 学校では、仲よく協力することについて意図的、計画的に指導する。
 - 学校、地域では、自治会、育成会、PTAが中心になって、明るいあいさつ運動を推進する。
 - 家庭では、人の接し方、あいさつ、奉仕などについて話し合い、実践的態度を育てる。
 - 行政では、児童館を中心とした利用促進を図る。
- ◎ 学校、家庭を中核として、地域、行政との連携を図りながら、協力する態度を育てる。

教育目標番号 24

内容の柱 第3 社会連帯感の育成

道徳的な態度を身につけ、実践することができる。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 自他の生命を尊重する態度を身につけることができる。
B	2 常に明るく誠実に行動することができる。
A	3 規則や自分たちで作るきまりの意義を理解し、これを守ることができる。
A	4 相手の身になって考え、温かく接することができる。
B	5 公共物を大切にし、公衆道徳を守ることができる。
B	6 善悪の判断ができ、責任ある行動をとることができる。

(2) 具体策

- 学校教育全体を通して行う道徳指導の充実
- 親切運動などの推進
- 校内美化運動の推進
- 互いに認め合う学級、学年、学校づくりの推進
- 生命尊重に関する指導
- 青少年を非行から守る運動の充実

(3) 目標達成の場とそのかわり（教育機能連関）

- 学校では、道徳教育の全体計画に基づいて、一貫性のある道徳教育を組織的、計画的に指導する。
 - 家庭では、“しつけ教育”に特に力を入れる。
 - 地域では、児童を取り巻くよい環境づくりに努めるとともに、善行を認め、励ますようにする。
- ◎ 学校、家庭を中核として、地域との連携を図りながら、道徳的態度の育成と実践に努める。

教育目標番号 27

内容の柱 第3 社会連帯感の育成

よりよい仲間づくりをするために、不合理な差別や偏見をもたないで生活することができる。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
A	1 相手の立場に立って思いやりの心をもつことができる。
B	2 社会の一員として、自他の人格を認めたり、連帯感や協調性を身につけることができる。
B	3 社会生活について、自ら考え正しく判断することができる。
B	4 差別や偏見に気付くことができる。

(2) 具体策

- 集団活動に関する特別活動での指導
- 共遊の時間、給食の時間、清掃の時間などでの連帯感や協調性の指導
- 差別や偏見に関する道徳、社会科をはじめとした学習指導

(3) 目標達成の場とそのかわり（教育機能連関）

- 学校では、教育活動全般を通して、差別をしない、差別に負けない、差別を許さない指導を意図的、計画的に行う。
- 家庭では、家族のそれぞれの人格を認め合い、協力する生活態度を育てる。
- 地域では、相手の立場に立って考えたり、分け隔てなくみんなと仲良く行動できる態度を育てる。
- ◎ 学校、家庭を中核として、地域との連携を図りながら、偏見や不合理な差別をなくすように努める。

教育目標番号 30

内容の柱 第3 社会連帯感の育成

奉仕活動の大切さを理解し、積極的にその活動に参加する。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
D	1 自分の存在感を自覚し、他に報いる義務があることを理解することができる。
D	2 狭い集団だけでなく、広く他に尽くすことにより、お互いの生活感が高められることを自覚することができる。
D	3 社会における各種ボランティア活動の内容を理解することができる。
D	4 学級、学校、家庭及び地域社会において広く奉仕体験をすることができる。
B	5 自分が他に尽くすことにより、どのような気持ちになるかを体験に基づき発表することができる。
D	6 家族の一員であることを自覚し、自ら進んで家族のために働く喜びをもつことができる。

(2) 具体策

- 特別活動や道徳などを通して、奉仕活動に関する指導
- 奉仕活動の実践
- 子供会などを通しての奉仕活動への参加
- 各種のボランティア活動の紹介と参加
- 地域クリーン運動などへの参加

(3) 目標達成の場とそのかわり（教育機能連関）

- 家庭では、家事を分担させ奉仕する態度を育てる。

- 学校では、特別活動、道徳などを通して奉仕の意識を高め、また実践の場を設ける。
- 地域では、子供会や地域ぐるみのクリーン運動などを通して奉仕の意識を高め、実践させる。
- ◎ 家庭、学校を中核として、地域との連携を図りながら奉仕活動に参加する態度を育てる。

教育目標番号 32

内容の柱 第4 よき家庭人の育成

敬老の精神を身につけ実践する。

(1) 達成目標

タイプ	達 成 目 標
B	1 祖父母などを尊敬し、愛情をもって接することができる。
B	2 高齢者の豊かな体験に学び、これを生かすことができる。

(2) 具 体 策

- 祖父母を中心にすえた「家庭の日」に関する各種行事の実施
- 高齢者と児童との交流事業の推進
- 高齢者を大切に指導
- 高齢者を招待しての学校行事の実施
- 広報紙などによる敬老意識の啓発

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、祖父母の体験談に素直に耳を傾け、その体験を有効に生かす。
- 家庭では、祖父母を尊敬し愛情を持って接する。
- 学校では、高齢者を指導者として、地域の伝統と高齢者の豊かな体験に学ぶ場を設ける。
- 学校では、敬老意識を育てる体験的な教育活動を意図的、計画的に行う。
- 地域では、高齢者との交流を図り、豊かな体験や知恵を学ぶ場を設ける。

- ◎ 家庭を中核として、学校、地域との連携を図りながら、敬老精神を養い実践できるように努める。

教育目標番号 34

内容の柱 第4 よき家庭人の育成

男女が協力して、よりよい家庭を築く生活態度を身につける。

(1) 達成目標

タイプ	達 成 目 標
D	1 男女の特性を理解できる。
(D)	2 家庭の中で家族が仕事を分担しあうことを理解できる。
(B)	3 よりよい家庭をつくるために、協力しあう生活態度を身につけることができる。
N	4 男女がお互いのよさを認め合うことができる。

(2) 具 体 策

- 学校の諸活動における男女協力の場の設定と実践
- 家庭科指導を通して、よりよい家庭を築く指導
- 家庭生活における男女協力の実践
- 性教育の推進
- 両性の人格を認め合う意識づくりの啓発

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、家族団らんの機会をもち、よりよい家庭生活を送る。
- 家庭では、学校と協力し、性教育について指導する。
- 学校では、男女協力の場を意図的、計画的に設ける。

足利市の教育目標

- 学校では、性教育について意図的、計画的に行う。
 - 地域では、子供会活動などでの男女協力について指導する。
 - 行政では、家庭教育に関する講座などの充実を図る。
- ◎ 家庭、学校を中核として、地域、行政との連携を図りながら、体験的活動を通し男女協力の態度を育てる。

教育目標番号 39

内容の柱 第4 よき家庭人の育成

家庭や地域で行う行事に積極的に参加する。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 家庭や地域の伝統的行事に参加することができる。
A	2 祖先の努力に感謝し、祖先を敬い、行事に参加することができる。

(2) 具体策

- 地域の文化財等を取り入れた指導
- 祖先を祭る行事への参加
- 地域の祭りへの参加

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、家族ぐるみで楽しめる伝統的行事を実施する。
- 地域では、伝統的行事を実施し、参加を呼びかける。
- 地域では、地域の文化、芸能の指導と伝承に努める。
- 学校では、地域の文化財を教材化し、文化の理解を深める。
- 行政では、地域文化財の保護や伝承を支援する。

- ◎ 家庭、地域を中核として、学校、行政との連携を図りながら、伝統的行事の振興に努める。

教育目標番号 41

内容の柱 第4 よき家庭人の育成

人格の基本となる望ましい性格を身につける。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 ものごとを最後までやりぬくことができる。
B	2 約束を守ることができる。
B	3 きまりを守ることができる。
B	4 だれとでも仲良くすることができる。
B	5 祖父母や身近な人を大切にすることができる。
B	6 進んで家事の手伝いができる。

(2) 具体策

- 望ましい性格を育てる特別活動、道徳などでの指導
- 望ましい性格を育てる家庭教育の実施と参加
- 望ましい性格を育てる育成会活動
- スポーツ教室、サークル活動などの開設と参加
- 広報紙などでのしつけに関する啓発

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、家族の一員としての立場を認め、家事の役割分担などを通して実践的態度を育てる。
 - 家庭では、社会教育機関の行事への参加を奨励する。
 - 学校では、特別活動、道徳などでの指導を通して基本的な生活態度の育成に努める。
 - 地域では、青少年の健全育成の意識を高める。
 - 行政では、家族での有意義な過ごし方や各種行事への参加について啓発する。
 - 行政では、青少年の健全育成事業を実施し、指導及び参加を呼びかける。
- ◎ 家庭、学校を中核として、地域、行政との連携を図りながら、人格の基本となる望ましい性格を育てる。

教育目標番号 46

内容の柱 第5 よき職業人の育成

勤労の尊さを理解し実践する。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 家族の仕事の内容を知り、その苦労や喜びを感じとることができる。
B	2 自分のやれる範囲で進んで手伝いができる。
B	3 家事の手伝いを通して、勤労の尊さを知ることができる。
B	4 まわりの人の仕事内容を知ることによって、働くことの苦労や喜びを理解することができる。

(2) 具体策

- 勤労体験学習の実施
- 「父の日」、「母の日」などの有意義な過ごし方の実践
- 「勤労感謝の日」の意義を考える活動の実践
- 児童のよさや持ち味を引き出し、伸ばす進路指導

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、家事を意図的に分担させ、働く喜びを味わわせるようにする。
 - 家庭では、家族の仕事の苦労や喜びについて話し合う。
 - 学校では、勤労体験学習などを通して、児童の良さや持ち味を引き出し、伸ばす進路指導を意図的、計画的に行う。
 - 地域では、クリーン運動などに児童を参加させ、勤労体験の場を設ける。
 - 企業では、親の仕事の見学会を実施する。
- ◎ 家庭を中核として、学校、地域、企業との連携を図りながら、勤労の尊さの理解に努める。

教育目標番号 52

内容の柱 第6 主体的な生活態度の育成

基礎的な知識や技能を習得し、自ら学びとる態度を身につける。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 相手の話をよく聞くことや相手にわかるように話すことができる。
B	2 相手によくわかるように読んだり、正しく書いたりすることができる。
B	3 自分でよい本をたくさん選んで読むことができる。
D	4 簡単なたし算、ひき算、かけ算、わり算を暗算ですることができる。
D	5 整数・小数・分数の四則計算をすることができる。
D	6 数量やその関係を式・表・グラフなどを用いて表わしたり、調べたりすることができる。

足利市の教育目標

D	7	問題を解決するために見通しをもって考えたり、工夫したりすることができる。
D	8	できるだけ自然に接して、その自然の事物現象から問題を見つけることができる。
D	9	自然の事物現象についての疑問や問題を解決するために、見たり、探したり、育てたり、作ったり、試みたり、考えたりすることができる。
B	10	社会生活について自ら考え、正しく判断することができる。
B	11	社会の一員として自他の人格を認めたり、社会的義務や責任を果たすことができる。
D	12	造形的な創造活動を通して、その美しさや表現の喜びを味わうことができる。
A	13	音楽の美しさや楽しさを感じるとともに、表現することができる。
D	14	家庭生活をよりよくしていくために、衣食住に対して創造的な実践をすることができる。
N	15	めあてや取り組みたいこと、関心のあることについて、調べたり読んだり、活動したりすることができる。

(2) 具 体 策

- 正しい言語環境の整備
- 図書室の機能と設備の整備
- 「学習ゾーン」の整備とその効果的な活用
- 基礎的な学力の指導
- 自然に接する実践
- 情操を深める指導
- 自ら考え、正しく判断できる指導
- 自ら課題をもって学習や研究に取り組む態度の育成
- 学習活動における地域の教育力の活用
- 学校外活動の実践と施設間のネットワーク化

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 学校では、基礎的、基本的事項の指導を重視するとともに、自ら学びとる態度を育成する。
 - 家庭では、子供の持ち味やよさに気づかせるとともに、自然との触れ合いや読書の楽しさに気づかせたり、正しいことば遣いなどを指導する。
 - 地域では、興味・関心に応じた主体的な活動を支援する。
 - 行政では、施設の整備とネットワーク化を図る。
- ◎ 学校、家庭を中核として、地域、行政との連携を図りながら、自ら学びとる態度を育てる。

教育目標番号 54

内容の柱 第6 主体的な生活態度の育成

基本的な生活習慣を身につけ、自ら考え正しく判断し行動することができる。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 自分で使ったところをきれいにするために、進んで清掃をすることができる。
B	2 机の上や身のまわりの物を使いやすく整理することができる。
B	3 後始末をきちんとすることができる。
D	4 むいだ靴などをそろえておくことができる。
B	5 学校の始業時刻に遅れないように起床することができる。
B	6 小づかいを計画的に使うことができる。
D	7 放課後の時間の使い方を自分で決めることができる。
B	8 大人から注意されなくても、ひとから信頼されるような行動をとることができる。
B	9 困ったことにぶつかっても、冷静にその場で処理することができる。
B	10 学習課題を独力で解決しようと努めることができる。
D	11 興味あることに熱心に取り組むことができる。
C	12 家族から離れても、ホームシックにならずに生活することができる。
B	13 積極的に物事を考え、創造的に解決しようとするすることができる。

(2) 具 体 策

- 基本的行動様式に関する日常生活指導
- 全教育活動を通して、自ら考え正しく判断し行動できる態度の育成
- 集団宿泊学習などを通して、望ましい生活態度の育成

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 学校では、思考力、創造力、判断力、表現力を育成するために、意図的、計画的な指導を行う。
 - 家庭では、基本的な生活習慣や主体的な生活態度を育てる。
 - 地域では、自主・自立の精神を養うため、集団活動の機会を設ける。
 - 行政では、自主・自立の精神を養うため、集団活動の場を設ける。
- ◎ 学校、家庭を中核として、地域、行政との連携を図りながら、自ら考え正しく判断し、行動できる態度を育成する。

教育目標番号 58

内容の柱 第6 主体的な生活態度の育成

自己をみつめ、望ましい生活をしようとする態度を身につける。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 失敗した場合、どうすればよいかを考えることができる。
C	2 仲良くするには、どんな心掛けをすればよいかを考え、実行しようとすることができる。
D	3 自分中心に考えた行動で、失敗した事例をあげ、改めようとするすることができる。
D	4 自分の心をおさえて（がまんして）友人関係をうまくすることができる。
B	5 欲しいものがあっても、すぐに手に入れることをがまんすることができる。
B	6 他人の言動に左右されず、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断し、実行しようとするすることができる。

(2) 具 体 策

- 自律心を育て、自ら判断し望ましい生活をしようとする教育
- 金銭教育の実践
- 他人を思いやり、自ら反省する教育

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、わがままな心をおさえ、自ら判断し自律した行動がとれるように指導する。
 - 学校では、道徳教育や情操教育、特別活動を行う。
 - 地域では、集団活動の場を通して、友人関係を円滑にしながら自律できる子供を育てる。
 - 行政では、心身ともに健やかな子育てをするための学級や講座を開設する。
- ◎ 家庭、学校を中核として、地域、行政との連携を図りながら、自律して望ましい生活ができる態度を育てる。

教育目標番号 59

内容の柱 第6 主体的な生活態度の育成

困難にくじけず、ねばり強くやり遂げる態度を身につける。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
A	1 常に希望を持ち、明るい生活をしようとする努力ができる。
B	2 目標を達成するためには、困難にくじけずにねばり強く努力しようとすることができる。
B	3 やり始めたことは、最後までやり遂げようとするすることができる。

足利市の教育目標

(2) 具 体 策

- 集団活動を通して心の強い子供の育成
- ねばり強くやり遂げる態度を育成するための道徳教育、特別活動
- 無気力、無感動、無関心な児童に対する指導
- 一人ひとりの子供の能力を生かす指導
- ねばり強くやり遂げる態度を育成するための家庭教育

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連携）

- 家庭では、家族のふれ合いを通して家族の一員としての意識を高め、困難に対処する意識を育てる。
 - 学校では、一人ひとりのよさを認め、その能力を育てる教育を意図的、計画的に行う。
 - 地域では、集団活動を通して子供に希望を与え、最後までやり遂げる心を育てる。
 - 行政では、学級、講座などを通して心身ともにねばり強く、たくましい子供を育てる指導を行う。
- ◎ 家庭、学校を中核として、地域、行政との連携を図りながら、困難にくじけずねばり強くやり遂げる子どもを育てる。

教育目標番号 61

内容の柱 第6 主体的な生活態度の育成

ものを大切にし、資源を有効に活用することができる。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 日常生活で使ういろいろな物を大切にすることができる。
B	2 物ができるまでの過程を理解し、大切に扱うことができる。
B	3 日常生活で使ういろいろな物を生み出す資源には、限りあることを理解することができる。
B	4 資源を生み出してくれる自然に感謝することができる。

(2) 具 体 策

- 物を大切にする道徳教育や特別活動
- 物を大切にする日常における生活指導
- 資源は有限であることの理解と指導
- 資源を大切にするためのポスター、作文などへの応募
- 環境教育における資源の大切さや有効な活用についての指導

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連携）

- 家庭では、物を大切にすることを実践する。
 - 学校では、資源は有限であることを理解させ、物を大切にする態度を育成する。
 - 行政では、資源の有効な活用の啓発と、リサイクル運動を推進する。
- ◎ 家庭、学校を中核として、行政との連携を図りながら、ものを大切にする態度を育て、実践させることに努める。

教育目標番号 62

内容の柱 第6 主体的な生活態度の育成

余暇を有効に過ごす。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
E	1 自然の中で遊ぶことができる。
(B)	2 サークル活動、ボランティアなど地域活動に、参加することができる。
E	3 自分にあった趣味・特技を身につけることができる。
A	4 家族ぐるみでの余暇活動に参加し、楽しく過ごすことができる。
B	5 趣味・特技を生かして有意義に余暇を過ごし、また指導することができる。

(2) 具 体 策

- 余暇の有効な過ごし方に関する指導
- ハイキング、キャンプ、自然観察などの野外活動の実施と参加
- 児童公園、こども館などの施設の整備
- 育成会行事などへの参加
- 高齢者との交流を含めた余暇活動の実施と参加
- 生涯学習関連施設の整備と利用
- 広報紙などによる余暇活動やボランティア活動の情報提供と参加
- 趣味・特技を習得できる学級、講座の開催と参加

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、家族ぐるみで自然や友達との接触が多くもてるようなスポーツやレクリエーション、自然観察を楽しんだり、趣味・特技を学んだりして、余暇の有効な活用をめぐる。
 - 地域では、子供が余暇を有効に活用できる場を用意し、その参加を促すようにする。
 - 学校では、地域活動などの情報提供を行い、余暇の有効な活用について指導する。
 - 行政では、余暇活動の情報提供や余暇活動に関する各種学級、講座を開催する。
- ◎ 家庭を中核として、地域、学校、行政との連携を図りながら、余暇の有効な活用を指導することに努める。

教育目標番号 64

内容の柱 第6 主体的な生活態度の育成

身のまわりの情報を整理し、活用する能力を身につける。

(1) 達成目標

タイプ	達成目標
B	1 学用品、身のまわりの品物、学校での作品や印刷物などを分類して整理することができる。
D	2 いろいろな情報の中からものごとの解決に必要なものを選び出すことができる。
(D)	3 集められた情報を分類・整理して、まとめをすることができる。
N	4 コンピュータなどの情報機器に慣れ親しむことができる。

(2) 具 体 策

- 身近な情報を整理し、それを活用する力を育てる指導
- テレビ、ラジオ、新聞などの望ましい視聴の指導
- 学校における情報機器の整備

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、たくさんの情報を整理したり、活用したりすることを指導する。
- 学校では、情報を整理し活用する基本的な資質や能力を育成する。
- 地域では、情報をできるだけ整理して提供する。
- 社会教育機関では、児童向けの各種情報提供のあり方について工夫する。
- 行政では、コンピュータなど情報機器の整備に努める。

- ◎ 家庭、学校を中核として、地域、社会教育機関、行政との連携を図りながら、情報活用能力を育てる。

日本及び世界の国々に対する関心と理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。

(1) 達成目標

タイプ	達 成 目 標
D	1 日本の人口、国土、産業、資源などについて学び、わが国の現状を理解することができる。
D	2 日本の歴史や文化を学び、わが国の歴史や伝統を大切にしようとする態度を身につけることができる。
N	3 日本と経済や文化などの面でつながりが深い国を知り、それらの国の人々の生活の様子などを理解することができる。
D	4 平和な国際社会の実現のために日本が果たしている役割について知ることができる。

(2) 具 体 策

- 日本の現状を知るための学習指導
- 日本と外国との交流に関する学習指導
- 日本と関係の深い外国に関する学習指導
- 市民団体などの国際理解を進める活動への参加
- 外国の文化などに関する展示会などの開催と参加
- 外国人子女教育の実施

(3) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 家庭では、各種の情報を通して世界における日本の役割について話し合う。
 - 学校では、国際社会に生きる日本人を育成するための国際理解教育を行う。
 - 地域では、外国人とのふれあいを通して国際感覚を身につける。
 - 行政では、AETなどの学校派遣により、国際理解を指導する。
- ◎ 家庭、学校を中核として、地域、行政との連携を図りながら、国際社会における日本人としての自覚を高めるよう指導する。